

高齢者センター部会 委員意見まとめ

(凡例)意見に対する対応

:設計に反映するもの、○:事業に反映するもの、:今後の検討とするもの、-:対応が困難なもの

機能等	委員意見	対応	区の考え方
施設全体	高齢者と子どもがともに遊んだり、高齢者が持つ知識を子どもに教える機会を設け、多世代が交流できる工夫をしてほしい。	○	多世代交流は、高齢者センターが取り組む事業の一つに位置付けられています。(仮称)大泉高齢者センターにおいても積極的に取り組んでまいります。
	高齢者と子ども達のコミュニケーションを大切にすため、高齢者が利用するゾーンと子ども達のゾーンをなるべく近くにしてほしい。		関越自動車道高架下活用施設建設の全体のゾーニングについては、これまで検討を重ねてきた内容に基づき、一定の整理を図っております。ゾーン間を行き来する方法として「プロムナード」を設けることを予定しています。他の施設と連携した運営ができるように、今後検討していきます。
	高齢者センターを利用する方は、どの程度の身体状況の方が多いいのか。また、障害者の方も利用することはあるのか。これを踏まえた設計にしてほしい。		高齢者センターの利用者の多くは元気高齢者です。元気な方がいつまでもお元気でいただくため、交流・くつろぎなどの機会や、講座・教室の実施、日常生活の様々なお困り事の相談など、多様な機能を果たす施設を目指します。一方、介護を必要とする方は、区立デイサービスセンターをはじめとする介護施設をご利用いただいておりますが、高齢者センターにおいても、可能な限り多くの方にとって使いやすい施設となるよう検討いたします。
	トイレは身動きがしやすいよう、ゆったりとした仕様としてほしい。		高齢者の利用を想定し、広々と利用できる仕様とします。
	トイレの設置数は利用者数等の想定を踏まえ、適切なものとしてほしい。(オストメイト設置への配慮含む)		建物が3棟に分かれるため、各棟に最低1か所は設けることとし、各棟ごとの利用内容の想定に合わせ、必要数を設けます。また、障害者の利用も想定し、オストメイト対応のトイレも設置いたします。
	大泉地域は自然や農園などの緑が多い地域である。高齢者センターにおいても緑化を重視してほしい。		区においてもみどりの確保は重要な施策と位置付けており、(仮称)大泉高齢者センターの設計にあたっては、周辺環境と調和の取れた緑化に配慮した仕様とします。また、事業においても緑を取り入れる催しなどを積極的に企画していきます。
	近隣の敬老館の改修時期に合わせて、高齢者センターの整備を行う事は可能か。	-	大泉北敬老館は、経年劣化に対応し、皆様の安全確保を図るため、平成26年度に耐震化などの改修工事を行う予定です。今回整備する高齢者センターの整備時期をこれに間に合わせることは困難な状況です。改修工事期間中はご不便をおかけしますが、他の敬老館や敬老室をご利用いただけるようお願いいたします。

機能等	委員意見	対応	区の考え方
施設全体	既存施設(豊玉高齢者センター)と比べて、室内天井高は同等程度を確保してほしい。		豊玉高齢者センターの天井高は約3mです。(仮称)大泉高齢者センターは、高架下という制約のため平屋建てを予定していますが、現状の図面では天井高は同等程度を確保可能と見込んでいます。
	方角や季節を考慮しながら、彩光の良い設計にしてほしい。		諸室レイアウトの工夫や、方角・季節ごとの日当たりを考慮しながら、できるだけ明るい雰囲気的设计にいたします。
	日当たりと同時に、夏の日差しの遮断などの工夫も行ってほしい。		設計段階での配慮や、ブラインドの設置等の運用により対応いたします。
入浴・運動機能	足腰などを鍛えるためのトレーニング機器を導入してほしい。		既存施設を参考に、健康増進、介護予防に役立つトレーニング器具を設置いたします。
	リハビリテーション訓練など、利用内容により、外部から見られたくない場合がある。トレーニングルームをガラス張りにする場合、プライバシーに配慮してほしい。		設計段階での配慮や、ブラインドの設置等の運用により対応いたします。
	トレーニング機器はできるだけ多くの方が利用できるように開放してほしい。	○	一定のルールの中で、どなたでも使えるようにしていきます。一方、トレーニング機器は、誤った利用方法により、かえってトレーニング効果が半減してしまう、身体を痛めてしまうなどの懸念があります。このため、正しい利用法を習得する講習を受講していただくなどの工夫を併せて行っていきます。
	浴室は高齢者だけでなく、障害者も入れるような想定をしてほしい。これにより、多くの方にとって広々として使いやすい設計にしやすいと思われる。		高齢者福祉施設は、歩行に不安のある方や車いすを使用する方も利用するため、様々な身体状況の方が利用しやすい設計を心がけています。浴室は既存施設に比べ、多くの面積を確保しております。
	浴室の規模は、想定される利用者頻度に対して、十分なものとしてほしい。		高齢者センターの浴室は高い人気を誇っております。既存施設を参考に、過度な混雑を生じない規模の設計とします。
	浴室にはスロープ設置の必要性はあるのか。必要ならば、適切に行ってほしい。		現状の延床面積の規模でのスロープ設置は困難です。一方、利用者の利便性は十分に考える必要があり、洗い場と浴槽の高さを調整し、入浴しやすい設計とします。
	リラックスコーナーは、入浴後にゆったりと足を伸ばしてくつろげるよう、畳などを設置してはどうか。		図面を修正し、リラックス・図書コーナーの一角に畳敷きの小上がりスペースを設置しました。
サークル利用ができる一方、個人で訪れ、くつろぐことができる場所を設けてほしい。		リラックス・図書コーナーは、マッサージ椅子などを設置し、利用者の皆様が気軽にくつろげる空間とします。また、浴室に近い場所に設けており、入浴の前後に一休みすることを想定し、畳敷きのスペースを設けます。	

機能等	委員意見	対応	区の考え方
展示・相談・ 情報発信 収集機能	パソコンコーナーを西棟へ配置し、代わりに娯楽室を東棟へ配置することが望ましい。娯楽室はカラオケなどの利用が想定され、西棟リラックスコーナーと併設した場合、音量などの問題が生じる。また、西棟は広場的な空間を想定しているのであれば、室内に入ってしまう娯楽室との組み合わせより、オープンスペースであるパソコンコーナーとの併設としてほしい。		図面を修正し、パソコンコーナーを西棟へ、娯楽室を東棟へ配置しました。
	喫茶スペースと展示スペースは、一体的に使える仕様としたほうが望ましい。		図面を修正し、「喫茶・展示スペース」として、展示作品を鑑賞しながら喫茶を楽しむなどの、一体的な利用を想定した設計としました。
	展示スペースにて利用者の作品展示などを行うのであれば、隣接のリサイクルセンターの工芸室との関係を図り、陶芸などを楽しめるようにしてほしい。		リサイクルセンター部会への要望としてお伝えします。
娯楽・学習	調理実習室の規模は、想定される利用頻度に対して、十分なものとしてほしい。	○	豊玉高齢者センターの利用頻度を参考に、主催事業等も行える規模の設計とします。
	娯楽室は、カラオケのみならず楽器練習などが可能な音楽室としての用途を想定してほしい。		防音・防振などの影響を踏まえ、実施設計において可能な限り対応します。
	諸室の一部を廊下から見通せる仕様とし、全体的に開放感のあるつくりしてほしい。		利用内容によるプライバシーへの配慮に注意しつつ、閉鎖的な空間とならないよう、実施設計において工夫を図ります。
施設管理	センター利用者の建物への入場について、安全・防犯管理を適切に行ってほしい。		既存施設と同様に、入場時に利用者証の提示をお願いし、安全・防犯管理に努めます。このため、西・中央・東の3棟ある建物のうち、利用者の入退は基本的に中央棟正面口を考えています。
	時代の変化に合わせて、多用途に対応できるよう、収納スペースを一定程度確保しておくことが望ましい。		図面を修正し、東棟の貸出部屋近くに倉庫を設ける設計としました。
	外壁の一部をガラス張りにすることは見通しが良くなる反面、割られる可能性がある。防犯上の工夫を図ってほしい。		ガラス張りは、交流の促進や、視覚的な見通しの確保のため有効と考えております。一方、ご指摘のとおり防犯の観点からも十分なものとなるよう、ガラスの強度や機械警備の方法などを併せて工夫いたします。
	節電のため、室内照明は一括ではなく、部分ごとに消灯可能な仕様としてほしい。		既存施設を参考に部分消灯が可能な仕様とします。

対応については、今後の道路管理者との協議および、高架下活用にあたっての制約により変更の必要が生じる場合があります。